

平成23年度 施策マネジメントシート【22年度評価+前期4年間の取組評価(総括)】 作成:23年5月

施策コード 52	施策名 身近な自然と生活環境の改善	政策名 人の営みと自然・環境が調和したまちづくり
施策区分 重点施策	主管部等名 水道環境部	施策主管課 林務課
	課長名 脇坂 隆文	内線 4860
	施策関係課 環境課、上村自治振興センター、南信濃自治振興センター、建設管理課	

1. 施策の目的と成果指標

施策の対象	対象指標	単位	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度見込
居住エリアの自然生活環境は対象指標は同一	市域面積	km <sup>2</sup>	658.76	658.76	658.76	658.76	658.76	658.76	658.76
施策の意図	成果指標	単位	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度目標
施策の目的 水や緑が守られ増える	身近な自然は守られていると感じる市民の割合	%	57.7	-	58.4	60.7	61.8	63.2	65
	市内の河川の水生生物の分布数(水質階級の9種の指標生物のうち発見された種の数) *当面の数値設定は下記2								
	調査箇所A 松川上流	種	8	7	8	8	409	9	9
	調査箇所B 松川下流	種	7	8	9	6	3	409	9
成果指標設定の考え方	身近な自然(居住エリア、生活環境)については厳密にエリアを設定することができないので、個人の感覚になるが、アンケートで把握。松川の水生生物の分布数については、きれいな水に住む生物の種が保たれることが、「水が守られている」ことを示していると判断できる。(なお、種ごとの個体数は調査の時期や時間等によって大きく異なるので指標としては採用しない。)								
成果指標の把握方法(算定式など)	市民意識調査。設問:身近な自然が守られていると思う(身近な自然とは、あなたが住んでいる周りの里山、河川などを指します) 回答:「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の合計 現在の調査地点については、松川水環境保全推進協議会の調査結果。調査は毎年1回、7月末に、松川上流(妙琴橋周辺)、下流(久米路橋下)の2地点で実施。								
基本計画期間における施策の目標設定とその根拠(水準の理由と前提条件)	<p>&lt;成果指標&gt; 市民意識調査では、身近な自然が守られているという回答者は60%以下で、守られていない理由は、1/3がごみの問題を指摘している。ごみ問題が改善されて、里山や身近な河川保全の取り組みを進めることで、70%程度まで高めることができそうである。一方、郊外の幹線道路では、休日を中心にポイ捨てが増加している。観光客の増加などが理由と考えられるが、このことをマイナスの条件と捉え、目標数値は65%と設定した。目標達成には、美化意識の向上、河川清掃等の継続的な実施が必要である。</p> <p>&lt;成果指標&gt; 現状の皆水洗化の取り組み等で水質は年々向上しており、今後の継続的な取り組みにより、調査地点A Bともに全9種が観察されることを目標とする。調査地点を拡大した場合は、その時点で当該箇所の目標を設定する。なお、目標達成には、皆水洗化の計画どおりの整備・接続、工場排水等の適正な処理、美化意識の向上、河川清掃等の継続的な実施が必要である。</p>								

2. 施策を担う主体

主体	施策の成果向上に向けた主体別の役割分担	ムトス指標と把握方法(把握方法と単位をカッコ書きする)	22年度実績	23年度目標
行政 市(国・県)	里山の適正管理の啓発活動 水質保全対策の実施 家や周辺の美化と緑化の啓発	育樹祭・炭焼き講習会等、里山整備の体験実習交流事業の実施回数(回) 下水道施設の普及率 河川の水質目標の達成率	5 94.8 72.8	8 93.0 90.0
市民等 市民(個人)	汚濁水を流さない 家や周辺の美化と緑化を行う	水洗化率 家や周辺の美化と緑化をしている市民の割合	現段階は、行政の役割のみ数値設定	
地域団体	地域の公共空間の美化と緑化	美化緑化活動の回数 美化緑化活動への参加者数		

3. 施策の成果達成度の分析

(1) 施策の成果達成度に対する平成22年度事務事業の総括			
事務事業全体の振り返り(総括)	各事務事業では、すべての事業で目標達成度が高評価であり、事業の目的は達成している。 特に20年度より導入された「森林づくり県民税」を財源とした里山整備は、3年を経過し着実に成果を上げている。		
(2) 施策の成果達成度とその考察			
平成22年度の実績評価と根拠(理由)	21年度と比べて成果が向上した	21年度と比べて成果は変わらなかった	21年度と比べて成果は低下した
	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然は守られていると感じる市民の割合も増加しており、徐々に成果は向上している。</li> <li>森林づくり県民税を利用した事業により、里山整備を着実に実施している。</li> <li>通学路周辺を中心とした竹藪整備を2年間実施しており、管理されずに放置された竹藪が減少した。(平成23年度で事業終了予定)</li> </ul>		
平成23年度の目標達成見込み	23年度で目標は達成できる	23年度での目標達成は難しい	

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質汚染に対する規制は強化されることが予想される。</li> <li>高齢化による担い手の減少などの理由により、手の入らない里山が増加することで、荒廃した里山が増加することが予想される。</li> <li>長野県森林づくり県民税が平成20年度から開始され、里山整備が促進されつつある。</li> </ul>
この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>松川以外でも水生生物の調査等をすべきではないか(議会基本構想検討委員会)</li> <li>土地利用計画の地区懇談会で、有休荒廃地を里山として保全することで緑を確保したらどうかという意見が寄せられた。</li> </ul>

5. 施策の事業(一般会計及び一部特別会計を含む)

	19年度決算	20年度決算	21年度決算	22年度決算見込み	23年度決算
施策事業費(人件費を除く)(千円)	49,093	41,866	68,563	60,188	
関連する事務事業の数(事業)	8	12	14	13	

6. 前期4年間の取組評価(総括)

施策の目的達成(対象を意図する状態にする)に向けて、前期4年間で重点的に取り組んできた事項とその評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境衛生事業として、河川清掃や天龍川を中心とした松川などの環境美化活動をまちづくり委員会などと協働して行った。</li> <li>荒廃した森林が多くなってきていることから、環境保護機能を十分に活かすため、間伐を中心とした森林整備を行うと共に、搬出間伐した地域材の有効な利用方法について森林組合を中心とする南信州木づかいネットワーク等と検討してきた。</li> </ul>
施策の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質汚染に対する規制は強化されることが予想される。</li> <li>高齢化による担い手の減少などの理由により、手の入らない里山が増加することで、荒廃した里山が増加することが予想される。</li> <li>長野県森林づくり県民税が平成20年度から開始され、里山整備が促進されつつある。</li> </ul>
主体別の役割の発揮状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境美化活動(河川清掃・イベントなど)への積極的な参加</li> <li>まちづくり委員会・公園愛護会などの組織で各種活動へ参加</li> <li>学校や個人で、花いっぱい活動やガーデニングへ取り組む</li> </ul>
行政として多様な主体に対する協働の働きかけの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な主体等の実行委員会を組織する。</li> <li>美化活動などへ助成</li> <li>里山整備への助成</li> </ul>
多様な主体の協働を推進していくための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で組合加入者が減少している時代に於いて、河川清掃などの環境美化活動が段々と難しくなってきたり、高齢化社会により各々の負担が大きくなる可能性があるため、今後はより一層市民の皆さんと連携をとって話し合っていくことが重要となる。</li> <li>森林離れをしている地主の気持ちを環境保護機能を活かすため、搬出間伐等の森林整備に向けさせるよう、地域材を高価で取引できるシステムづくりを構築して行く必要がある。</li> </ul>